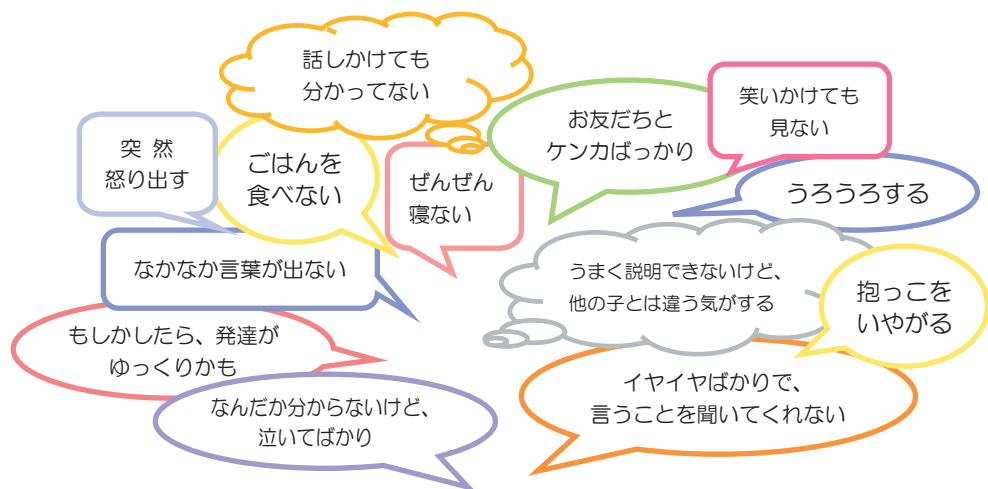


知ってください 発達障がいのこと



発達障がい(発達凸凹)とは…

- 脳の機能の特性によるものと考えられています。
- 親の子育てや愛情不足などによるものではありません。
- 早くからその特徴を理解し、適切に対応してあげることで、生活の困りごとを減らし、子どもの力(強み)を伸ばしていくことができます。

* 「発達障がい」は「発達凸凹(でこぼこ)」…?*

発達障がいのある子は苦手を持っていますが、強みもたくさん持っています。苦手の特徴によって何らかの困りごとが生じている状態が「発達障がい」ですが、いいところ(強み)を見つけて伸ばしていこうというのが「発達凸凹」の考え方であり、子育て応援の基本的な考え方です。

発達障がいには、広汎性発達障がい（自閉症スペクトラム）、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどいくつかのタイプがありますが、特に乳幼児期に気になる行動が見られるのが「広汎性発達障がい」です。

広汎性発達障がいの子どもには、次のような特徴や行動が見られることがあります。



広汎性発達障がいではない子どもでも、同じような特徴・行動が見られることがあります。どれかに当てはまれば広汎性発達障がいというわけではありません。

人とのつきあい方の特徴

※ これは特徴の一例です

一人遊びに熱中する

話しかけているのに、しらんぷり



スーパーなどで、親から離れてウロウロ

乳幼児期には

- 人への興味が乏しく、名前を呼んでも振り向かない
- 親の後追いをしない、人見知りが全くない、または人見知りがひどい
- 集団に参加しても、他の子どもに興味を示さない...など

人のかかわりについては、保育所や幼稚園などの集団に入ってから、苦手な部分が目立ち始める場合があります。



コミュニケーションの特徴

※ これは特徴の一例です

言われたまま受け止める
冗談が通じない

相手のことばを繰り返す

たくさんしゃべるわりに
理解していない

しゃべり方が独特

会話がちぐはぐで、
キャッチボールに
ならない

いつも標準語や
丁寧語



乳幼児期には

- 指さしをしなかったり、大人が指さしてもその方向を見ない
- 視線が合いにくい …など
- 人の手を道具のように使う(クレーン動作)などの特徴が見られる場合も

想像力の特徴

※ これは特徴の一例です

キャラクターや虫、マークなどに
凝って、コレクションに夢中

パソコンがあると、キーボードや
マウスに飛びついて、なかなか人の
話を聞こうとしない



車や電車、時刻表に
とても詳しい



早くから
アルファベットや
数字が読める



回っている扇風機や
ファン、木の葉などを
ずっと飽きずに
眺めている



初めての場面で大混乱

予定が急に変更になると
パニックになる



乳幼児期には

- 大人のまねやごっこ遊びをしない
- 決まった遊びを何度も繰り返す …など

からだの感覚の特徴

※ これは特徴の一例です

ピストルなどの大きな音や
人ごみの雑音などが嫌い



光をまぶしがる
キラキラした
ものが好き



人に触られるのは嫌い
でも自分から触るのは、
大丈夫



好き嫌いが
激しい
白いご飯やスナック菓子
しか食べなかったり、
野菜が絶対ダメだったりする



特定の匂いが
気になってしまう

身体の使い方が
どことなくぎこちない
ダンスや縄跳び、
跳び箱などが苦手



乳幼児期には

- 抱っこしても体を沿わせず、なんとなく抱きにくい
- 眠りが浅く、ちょっとした音ですぐに目を覚ます
- 極端な偏食、同じ服しか着ない …など

発達障がいかな?…と思ったら

ここで紹介したような特徴は、発達障がいではない子どもにも見られることがあります。発達障がいの診断は、専門の医療機関で発達等の検査、保護者からの聞き取り、行動観察等によって慎重になされます。「発達障がいかな?」と思ったら、ひとりで悩まずに、まずは保健センターの保健師や相談機関、専門の医療機関などに相談してください。

いいとこさがしをしよう

「困った子」ではなく「困っている子」
苦手を強みに変えて応援しよう

- 見て覚える、見て理解するのが得意
- こだわりが強い ⇒ 納得すれば、人一倍しっかり取り組むことができる
- 気が散りやすい ⇒ いろいろなことに興味を持って取り組める

発達障がいの子どものは、他の子どもに比べて手助けや配慮が必要な場面が多いですが、周囲が本人の特徴を理解し、早い時期から適切なサポートをしてあげれば、ゆっくりでも着実に力をつけ、その子の良さを伸ばしていくことができます。専門家に相談しながら、のびのびと生活できるようなサポートを考えてあげましょう。